

|                         |  |         |                      |
|-------------------------|--|---------|----------------------|
| 1. 科目名 (単位数)            | アカデミックライティング&プレゼンテーション(2単位)  | 3. 科目番号 | EDMP5211<br>EDMP5361 |
| 2. 授業担当教員               | 【池袋】高橋 みどり 山口 敬雄<br>【名古屋】内藤 伊都子 鈴木 茂樹  |         |                      |
| 4. 授業形態                 | 講義 演習 発表   | 5. 開講学期 | 春期                   |
| 6. 履修条件・他科目との関係         | 履修条件は特になし  |         |                      |
| 7. 講義概要                 | 修士論文を執筆中、あるいは、執筆を目指す受講生にとって、母語以外の言語による論文執筆は容易なことではない。なぜなら、修士論文を完成させるためには、専門分野の知識のみならず、論文を書くためのスキルも身に付け、活用していく必要があるからである。本講座の目的は、修士レベルの学術論文 (Academic Writing) の執筆能力と口頭発表での発表能力を磨くことにある。具体的には、短文、段落、小論文の順に、日本語 (又は英語) で文章を執筆し、徐々に長い文書が執筆できるよう練習を積んでいく。受講生が書いた文章はフィードバックされ、助言を基に書き直していく過程を通して、書くスキルの向上を目指す。また受講生は、発表 (Presentation) の機会を活用し、音声面の改善や良い発表とはどのようなものか、体験し、考察することになる。   |         |                      |
| 8. 学習目標                 | <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 日本語による学術論文の特徴を知り、学術論文の重要性を認識する。</li> <li>2. 修士論文の特徴と全体構造を理解し、学習した技術を使って課題を作成することができる。</li> <li>3. 論文の推敲の仕方を学習し、書いたものを分析し推敲する力を身に付けることができる。</li> <li>4. 序論・本論・結論からなる小論文の構成を意識しつつ、文と文・段落と段落・論文全体の結び付きに注意を払いながら、論文を執筆する方法を学習し、実際に文章を書く中で、文章表現力を向上させる。</li> <li>5. 各自の専門分野の修士論文の特徴を把握し、これまでに学んだことも活用し、今後の論文執筆や発表に活かす土台を形成することができる。</li> </ol>  |         |                      |
| 9. アサシメント (宿題) 及びレポート課題 | シラバス「14 学習の展開及び内容」の各テーマを参照のこと。詳細は授業内で指示する。   |         |                      |
| 10. 教科書・参考書・教材          | <b>【教科書】</b><br>資料は適宜講義で配付する。<br><b>【参考文献】</b><br>東京福祉大学・大学院 『2020年度 大学院要覧』<br>新堀 聰『評価される博士・修士論文の書き方・考え方』同文館、2002<br>花井 等・若松 篤『論文の書き方マニュアル:ステップ式リサーチ戦略のすすめ』有斐閣アルマ、2004<br>アカデミック・ジャパニーズ研究会編著『改訂版 大学・大学院留学生の日本語』④論文作成編 アルク 2019<br>その他文献は、講義内で適宜紹介する。   |         |                      |
| 11. 成績評価の規準と評定の方法       | ○成績評価の規準<br><ol style="list-style-type: none"> <li>1. 日本語による学術論文の特徴を知り、学術論文の重要性を認識することができたか。</li> <li>2. 修士論文の特徴と全体構造を理解し、学習した技術を使って課題を作成することができたか。</li> <li>3. 論文の推敲の仕方を学習し、書いたものを分析し推敲する力を身に付けることができたか。</li> <li>4. 序論・本論・結論からなる小論文の構成を意識しつつ、文と文・段落と段落・論文全体の結び付きに注意を払いながら、論文を執筆する方法を学習し、実際に文章を書く中で、文章表現力を向上させることができたか。</li> <li>5. 各自の専門分野の修士論文の特徴を把握し、これまで学んだことも活用し、今後の論文執筆や発表に活かす土台を形成することができたか。</li> </ol> ○評定の方法<br>レポート 60%、 発表 20%、 授業への取り組み 20%<br>以上を総合的に評価する。 |         |                      |
| 12. 受講生へのメッセージ          | 学術論文の執筆にはルールがありますが、そのルールがわかると、論文を読み書きする時に役立ちます。  |         |                      |
| 13. オフィスアワー             | 初回の講義内で通知する。   |         |                      |
| 14. 学習の展開及び内容           | 【テーマ, 学習の目標, 学習の内容, キーワード, 学習の課題, 学習する上でのポイント等】  |         |                      |
| 1. テーマ                  | 学術論文の特徴 (高橋) (内藤)  |         |                      |
|                         | <b>【学習の目標】</b> 学術論文の執筆に際し、良い論文を作成するための第一歩として、学位論文とはどのようなものを理解する。<br><b>【学習の内容】</b> ある文章群に論文としての資格を与えるもの、すなわち論文の実質的要件を学ぶ。併せて論文執筆に必須となる学術的文章の作成技術を身につけるための練習を行う。<br><b>【キーワード】</b> 先行研究業績 独創的意見 学術的文章<br><b>【学習の課題】</b> 「これからの勉学・研究の計画」について文章を作成する。(レポート①)<br><b>【参考文献】</b> 新堀 聰 『評価される博士・修士論文の書き方・考え方』2002 同文館 第2章<br><b>【学習する上での留意点】</b> 事前に課題の内容について、自分の考えをまとめておくこと。  |         |                      |
| 2. テーマ                  | 修士論文の全体構造と作成上の留意点 (高橋) (内藤)  |         |                      |
|                         | <b>【学習の目標】</b> 論文が備えるべき一定の形式的要件ならびに論文の構成要素とはどのようなものを理解する。<br><b>【学習の内容】</b> 論文は、実質的要件に加え、一定の形式的要件も備えていなければならないので、その概要について学ぶ。次に論文の構成要素を学び、論文の章と節を立てるアウトライン作成に備える。<br><b>【キーワード】</b> 序論 (introduction) 本論 (main discourse) 結論 (conclusion)<br><b>【学習の課題】</b> 指導教員に相談するなどして、論文 (修士論文が含まれることが望ましい) をいくつか入手し、それらの構成要素   |         |                      |

|           |  |
|-----------|--|
|           | <p>を確認して、どのように論が展開されているのか、章立てを書き出してみる。</p> <p>【参考文献】新堀 聡 『評価される博士・修士論文の書き方・考え方』2002 同文館 第3章</p> <p>【学習する上での留意点】 文献調査はできるだけ早い時期から行うべきである。自分のテーマに関連した入門書や概説書などから文献の情報を得て、文献目録を作り始めるとよい。</p>  |
| 3 . テ ー マ | 日本語の文章の特徴（文・段落・小論文レベル） （高橋）（内藤）  |
|           | <p>【学習の目標】 学術論文に適した論理的な文章とはどのようなものかを理解する。</p> <p>【学習の内容】 学術的文章の文体や、日常会話と学術的文章の表現における相違点について学ぶ。次に学術的文章の文体と表現を用いて文章を作成する練習を行う。</p> <p>【キーワード】 文体 (styles) 表現 (expressions) 段落 (paragraph)</p> <p>【学習の課題】 指定されたプレゼンテーション原稿を学術的文章の文体と表現を用いて論説文 (essay) として書き直す。(レポート②)</p> <p>【参考文献】アカデミック・ジャパニーズ研究会編著『改訂版 大学・大学院留学生の日本語』④論文作成編 2019 アルク 第2課</p> <p>【学習する上での留意点】 実際に文章を作成する時には、今回の参考文献の文型・表現集や例文集を活用するとよい。</p>   |
| 4 . テ ー マ | 論文及び発表原稿の推敲の仕方 （高橋）（内藤）  |
|           | <p>【学習の目標】 論文及び発表原稿の推敲の仕方について学び、その重要性を認識する。</p> <p>【学習の内容】 論文や発表原稿の下書きが完了したら、推敲を十分に行う必要がある。「論理的整合性の確認」、「入力ミス・変換ミス、用語・表現の不統一、レイアウト上の体裁の点検」「表現のチェック」など推敲の際の留意点について学ぶ。</p> <p>【キーワード】 論理的整合性 表記の統一 表現のチェック</p> <p>【学習の課題】 これまで自分が作成した文章を、推敲の際の留意点に照らし合わせて十分に点検する。</p> <p>【参考文献】花井 等・若松 篤『論文の書き方マニュアル:ステップ式リサーチ戦略のすすめ』2004 有斐閣アルマ STEP3</p> <p>【学習する上での留意点】 論文では執筆の仕方も評価の対象となるので、基本的なルールを身につけるよう日頃から心がける。</p>  |
| 5 . テ ー マ | アブストラクトの全体構成 （高橋）（内藤）  |
|           | <p>【学習の目標】 アブストラクトとはどのようなものかを理解する。</p> <p>【学習の内容】 アブストラクトは日本語か英語のいずれかで作成するよう求められることが多いので、この授業では日本語と英文両方のアブストラクトを取り扱うこととする。自分の研究テーマに関連する論文の日本語と英文のアブストラクトを読み、その内容と全体構造を理解する。</p> <p>【キーワード】 背景 (background) 目的 (purpose) 方法 (method) 結果 (result) 結論 (conclusion)</p> <p>【学習の課題】 英文のアブストラクトの情報構造に照らし合わせ、日本語のアブストラクトの情報構造を分析する。</p> <p>【参考文献】 資料配付 英和辞典 (各自持参のこと)</p> <p>【学習する上での留意点】 事前に自分の研究テーマに関連する論文のアブストラクト (日本語・英文) を入手し、授業当日持参すること。</p>  |
| 6 . テ ー マ | 研究背景の書き方 （高橋）（内藤）  |
|           | <p>【学習の目標】 研究背景における課題の提示すなわち問題の指摘や論点の提示の手法について理解を深める。</p> <p>【学習の内容】 論文の本文では、序論で研究背景を述べるので、序論の構成要素を確認しておく。次に課題の提示すなわち問題の指摘や論点の提示の手法について学ぶ。最後に、学んだ手法を用いて、実際に自分の研究テーマについて、問題の指摘を行う文章を作成する。</p> <p>【キーワード】 研究背景 序論 課題の提示 問題の指摘 論点の提示</p> <p>【学習の課題】 自分の研究テーマについて、何が問題か、その問題の解決にはどんなことが必要かを述べる。(レポート③)</p> <p>【参考文献】アカデミック・ジャパニーズ研究会編著『改訂版 大学・大学院留学生の日本語』④論文作成編 2019 アルク 第3課</p> <p>【学習する上での留意点】 事前に関心のある課題についての文献を調べ、自らの基礎知識を確認しておくこと。</p>  |
| 7 . テ ー マ | 先行研究及び現在の研究を記述する際の情報構造とその内容 （高橋）（内藤）   |
|           | <p>【学習の目標】 先行研究の紹介と先行研究の問題点の指摘の手法について理解を深める。</p> <p>【学習の内容】 独創的意見は先行研究業績の精査・分析の上に成り立つ。論文では自己の得た結論と先行研究の成果との相違点を明確にする必要がある。序論の重要な構成要素である、先行研究の紹介ならびに先行研究の問題点の指摘の手法を学ぶ。次に、学んだ手法を用いて、自分の研究テーマに関する先行研究を紹介し、その問題点を指摘する文章を作成する。</p> <p>【キーワード】 先行研究 直接引用 (direct quotation) 言い換え (paraphrase) 要約 (summary)</p> <p>【学習の課題】 自分の研究テーマに関する先行研究を紹介してその問題点を指摘する。(レポート④)</p> <p>【参考文献】新堀 聡 『評価される博士・修士論文の書き方・考え方』2002 同文館 第3章<br/>アカデミック・ジャパニーズ研究会編著『改訂版 大学・大学院留学生の日本語』④論文作成編 2019 アルク 第4課</p> <p>【学習する上での留意点】 主要文献を精読する際に、要点や気づいた点、疑問などをメモしながら読むとよい。</p> |
| 8 . テ ー マ | 研究目的の書き方 （井草）（内藤）  |
|           | <p>【学習の目標】 研究目的の重要性を認識し、その書き方と留意点を把握する。</p> <p>【学習の内容】 いくつかのテキストを比較し、研究目的の効果的な書き方を学習し、研究目的を書く。</p> <p>【キーワード】 時制 文体 専門用語</p> <p>【学習の課題】 自分の研究テーマに関連して研究目的を書く。(レポート⑤)</p> <p>【参考文献】 アカデミック・ジャパニーズ研究会編著『改訂版大学・大学院留学生の日本語』④論文作成編 アルク、2019 第4課</p> <p>【学習する上での留意点】 自分の研究分野の論文の目的を読む時、内容のみならず効果的な表現に注目し丁寧に読むこと。</p>   |
| 9 . テ ー マ | 研究結果の書き方 （井草）（鈴木）  |
|           | <p>【学習の目標】 研究結果の重要性を認識し、その書き方と留意点を把握する。</p> <p>【学習の内容】 いくつかのテキストを比較し、研究結果の効果的な提示の仕方を学習し、研究結果を書く。</p> <p>【キーワード】 考察 関係性 結論 再読</p> <p>【学習の課題】 自分の研究テーマに関連して研究結果を書く。(レポート⑥)</p> <p>【参考文献】 アカデミック・ジャパニーズ研究会編著『改訂版大学・大学院留学生の日本語』④論文作成編 アルク、2019</p>   |

|   |  |
|---|--|
| <p>第13課<br/>         滝浦真人・草光俊雄 『日本語アカデミックライティング』放送大学教育振興会、2017 14章<br/> <b>【学習する上での留意点】</b> 普段から自身の研究分野の論文の結果を読む時、内容のみならず効果的な表現に注目し丁寧に読むこと。</p>   |  |
| 10. テーマ   | 序論のひな型を執筆する。(井草)(鈴木)                                 |
| <p><b>【学習の目標】</b> 構想発表会での発表を目指し、論文の序論を執筆し、文章表現力に磨きをかける。<br/> <b>【学習の内容】</b> 論文の序論は、研究の方向性を示す大切な部分である。そこで、今回はその要素である研究背景・先行研究・研究目的を含む論文の序論を執筆し、これまでの学習を関連づけ発展させ、序論の執筆・推敲を繰り返し、論旨の一貫した文章が書けるよう練習する。<br/> <b>【キーワード】</b> 研究背景・先行研究・研究目的 論旨の一貫性 表記の統一<br/> <b>【学習の課題】</b> 論文のひな型を作成し、推敲後、定められたアドレスに送信する。(レポート⑦)<br/> <b>【参考文献】</b> 上村妙子・大井恭子『英語論文・レポートの書き方』研究社、2004 第8章<br/>         花井 等・若松 篤『論文の書き方マニュアル:ステップ式リサーチ戦略のすすめ』有斐閣アルマ、2004<br/>         アカデミック・ジャパニーズ研究会編著『改訂版 大学・大学院留学生の日本語』④論文作成編 アルク、2019<br/> <b>【学習する上での留意点】</b> 研究結果の重要性を認識し、執筆・推敲を繰り返し、より良い研究結果が書けるよう練習すること。</p>                                   |  |
| 11. テーマ   | 作成した序論のテキストを検討する。(井草)(鈴木)                            |
| <p><b>【学習の目標】</b> 自分で執筆した序論の長所と問題点を認識し、今後の論文執筆に活かす。<br/> <b>【学習の内容】</b> 文と文の結束性 (Cohesion)、段落と段落の結束性 (Cohesion)、テキスト全体の一貫性 (Coherence)、適切な助詞の使用、時制に注意し、序論のテキストを検討する。<br/> <b>【キーワード】</b> 内容の一貫性 Cohesion Coherence 助詞 時制 音読<br/> <b>【学習の課題】</b> フィードバックを基に、作成した序論の長所・問題点を一覧表にまとめる。レポート (B-4) (レポート⑧)<br/> <b>【参考文献】</b> アカデミック・ジャパニーズ研究会編著『改訂版大学・大学院留学生の日本語』④論文作成編 アルク、2019<br/> <b>【学習する上での留意点】</b> 序論作成上の留意点を記録し、今後の論文執筆に活用すること。</p>  |  |
| 12. テーマ   | 1. 英文タイトルの書き方 2. 発表 (Presentation) に際しての留意点 (井草)(鈴木) |
| <p><b>【学習の目標】</b> ①英文タイトルの書き方のルールを確認し、専門分野の英文タイトルを書いてみる。<br/>         ②口頭発表を行う際の留意点を確認し、練習する。<br/> <b>【学習の内容】</b> ①英文タイトルを書く際に注意すべきことを確認し、ルールに沿って書けるよう練習する。<br/>         ②研究発表を行う上で大切なことを、発表資料・発表マナーも含めてグループで話し合い、ポイントをまとめる。<br/> <b>【キーワード】</b> 簡潔さ 分かり易さ 論旨の一貫性 音読<br/> <b>【学習の課題】</b> 1. 事前にかけてきた英文タイトルを検討する。2. 発表する際の留意点をまとめ、各自提出する。(レポート⑨)<br/> <b>【参考文献】</b> 配布資料 和英辞典<br/> <b>【学習する上での留意点】</b> 専門分野の英文タイトルの書き方を身に付けることは、研究者として大切なことである。</p>  |  |
| 13. テーマ   | 1. 参考文献の記載方法 2. 口頭発表のリハーサル (井草)(鈴木)                  |
| <p><b>【学習の目標】</b> 参考(引用)文献の記載の仕方を学び、自身の研究分野に応用してみる。<br/> <b>【学習の内容】</b> 文献を引用する際の留意点を確認し、研究領域により提示の仕方が異なることを認識し、自身の研究分野の引用の仕方を再確認し、口頭発表の印刷物作成の際に活用する。<br/> <b>【キーワード】</b> MLA スタイル APA スタイル 表記<br/> <b>【学習の課題】</b> 1. 専門分野の参考文献を書く練習をする。<br/>         2. 口頭発表のリハーサルを通じて、問題点を発見し、対策を考察する。<br/> <b>【参考文献】</b> 新堀 聡『評価される博士・修士論文の書き方・考え方』同文館、2002 第5章<br/>         花井 等・若松 篤『論文の書き方マニュアル:ステップ式リサーチ戦略の進め』有斐閣アルマ、2004 第3章<br/>         滝浦真人・草光俊雄 『日本語アカデミックライティング』放送大学教育振興会、2017 7章、付録<br/>         上村妙子・大井恭子『英語論文・レポートの書き方』研究社、2004 第7章、第8章<br/> <b>【学習する上での留意点】</b> 自分の専門領域における参考(引用)文献の提示方法を確認し、マスターすることは大切である。</p> |  |
| 14. テーマ   | 第1回 Presentation 質疑応答 総評 (井草)(鈴木)                    |
| <p><b>【学習の目標】</b> 発表 (Presentation) を体験し、発表の良かったところ、問題点を認識し、改善策を考察する。<br/> <b>【学習の内容】</b> パワーポイントを活用し、研究背景・先行研究・研究目的中心に発表する。<br/> <b>【キーワード】</b> 発表資料、アイコンタクト、声の大きさ、間の取り方、質疑応答のマナー<br/> <b>【学習の課題】</b> 発表評価シートに記入しながら、発表を聞き、質問する。(レポート⑩: 発表評価シート、発表原稿、発表資料)<br/> <b>【参考文献】</b> Richard McMahon, <i>Presenting Different Opinions</i>. Nan'undo, 2003.<br/> <b>【学習する上での留意点】</b> 他の受講生の発表を通して、より良い発表とはどのようなものか考察する。</p>   |  |
| 15. テーマ   | 第2回 Presentation 質疑応答 総評 授業評価 (井草)(鈴木)               |
| <p><b>【学習の目標】</b> 発表 (Presentation) を体験し、発表の良かったところ、問題点を認識し、改善策を考察する。<br/> <b>【学習の内容】</b> パワーポイントを活用し、研究背景・先行研究・研究目的中心に発表する。<br/> <b>【キーワード】</b> 発表資料、アイコンタクト、声の大きさ、間の取り方、質疑応答のマナー<br/> <b>【学習の課題】</b> 発表評価シートに記入しながら、発表を観察し、質問する。(レポート⑩: 発表評価シート、発表原稿、発表資料)<br/> <b>【参考文献】</b> Richard McMahon, <i>Presenting Different Opinions</i>. Nan'undo, 2003.<br/> <b>【学習する上での留意点】</b> 他の受講生の発表を通して、より良い発表とはどのようなものか考察する。</p>  |  |